

東京ディズニーランド・東京ディズニーシー

1. 施設概要

ディズニー・テーマパーク（「東京ディズニーランド」・「東京ディズニーシー」）は、あらゆる世代の人々が楽しめる“ファミリー・エンターテイメント”を基本理念に誕生し、それまでの子供のためのアミューズメントパーク（遊園地）とは全く異なった新しい“テーマパーク”です。

「東京ディズニーランド」がファンタジー、夢、そして魔法を盛り込んだディズニー映画がコンセプトになっているのに対し、「東京ディズニーシー」は、海にまつわる物語や伝説を題材にしたテーマパークで、時代も趣きも異なる、7つのテーマポート（寄港地）から構成されています。



【東京ディズニーランド・東京ディズニーシー】

施設名	東京ディズニーランド・東京ディズニーシー		
所在地	千葉県浦安市舞浜		
面積	<u>東京ディズニーランド</u>	テーマパークエリア	51.0 ha
		駐車場	22.5 ha
	<u>東京ディズニーシー</u>	テーマパークエリア	49.3 ha
		（うち水面の面積）	9.2 ha
<u>両パーク共通</u>		駐車場（一部立体駐車場）	9.6 ha
		共通駐車場	18.1 ha
		共通バックヤード	9.8 ha
開業時期	（東京ディズニーランド）	昭和58年4月	
	（東京ディズニーシー）	平成13年9月	

[自然との調和（植栽）]

テーマパークを演出する大切な要素として、約32haに及ぶ緑地があります。高木、低木、建物内植栽など、パークとその周辺に約400種、約585,000本を超える樹木が植えられています。また、ミッキーマウスやドナルドダックをかたどったユニークなトピアリーや、約30,000㎡に及ぶ芝生や花壇など、四季折々にみずみずしい彩りでパークを演出しています。これらの植栽への散水には中水を使用しています。

2. 雑用水利用システム概要

(1) 概要

東京ディズニーランド

開園以来、浄化槽としての水処理施設を運用し、流入した雑排水及び厨房排出等の汚水については全量进行处理し、パーク内で使用する以外の処理水は海域放流していましたが、平成10年9月からパーク敷地が公共下水道区域となった事から、平成12年4月より水処理システムに一部改造を加え、発生した汚水の内雑用水としてパーク内で必要となる量の汚水进行处理し、余剰の汚水については、公共下水道へ直接放流する方式に変更しています。

園内から発生した汚水は、雨水との分流方式で污水管により自然流下にて水処理システムに集水し、活性汚泥方式による浄化、砂濾過、活性炭吸着、塩素消毒などの処理を経てパーク内に送水し、トイレの洗浄水や植栽への散水に使用しています。

東京ディズニーシー

東京ディズニーシーでは、雑排水及び厨房排出等の発生汚水の全量を公共下水道へ放流することが可能でしたが、東京ディズニーランド同様水資源の有効利用の観点から水処理施設を設置し雑用水を利用する計画としました。

当施設は、必要となる雑用水量のみを造水することで必要最小限の施設容量とし、また生物膜ろ過方式を導入することで施設規模の縮小を図っています。

園内で発生した汚水は分流方式にて、東京ディズニーシー敷地内の中継ポンプ場に集水し、ポンプにて処理場へ圧送する方式をとっています。

処理場内の流量調整槽に圧送された汚水は処理用水と放流水とに分けられ、処理用水は生物膜ろ過方式により浄化し、活性炭吸着、塩素消毒などの処理系統を経由して再生処理水としてパークへ送水してトイレの洗浄水及び植栽への散水などに利用しています。

(2) 水処理実績

東京ディズニーランド及び東京ディズニーシーを合わせると年間で約200万 m^3 の汚水进行处理しています。



再生処理水の一部を利用している東京ディズニーシー